

犬山市部活動ガイドライン

令和6年 9月

犬山市教育委員会

犬山市小中学校長会

部活動は、心身が大きく成長する中学生にとって、体力を向上させ、他者と協同する態度や規律を尊ぶ態度を培うなど、人格の形成に大きく影響を及ぼすものです。

しかしながら、過度な活動が原因となる心身の健康障害の防止や、教員の本来の業務である、子どもたちと向き合う時と場を確保するために、教育活動全体の中での部活動の在り方を見直し、「犬山市部活動ガイドライン」を策定しました。

1 部活動運営方針の説明について

- ・ 入学説明会・PTA総会などの機会を通して、部活動ごとの経営案・運営方法等を示します。
- ・ 1か月前には練習計画表を配付し、活動日及び休養日、活動時間、活動場所をお知らせします。
- ・ 対外試合等の移動は、公共交通機関・自転車を原則とします。保護者に送迎を強制することはありません。

2 平日の活動について

- ・ 少なくとも、週に1度を休養日とします。
- ・ 活動終了時刻は、最長17:15までとし、最終下校時刻を17:30とします。

3 休日の活動について

- ・ 土曜日か日曜日のどちらかを休養日とします。
**※第2、第4の土曜日・日曜日は、部活動地域移行における合同クラブの活動日とします。
(運動部対象)**
- ・ 「家庭の日」である第3日曜日は実施しません。
- ・ 休日の練習時間は、準備・片付け・休憩を除いて3時間をめどとします。
- ・ 長期休業中の休日の活動は実施しません。年末年始の休業、夏季休業中の行事を持たない期間も同様とします。
- ・ 大会参加等で、上記のルールから外れる場合は、代替の休養日を設けます。
- ・ 1年生の休日練習の開始は、5月下旬以降とします。

4 陸上・駅伝練習について（希望者がいる場合）

- ・ 最終下校時刻から1時間以内で下校させます。
- ・ 過度な負担を防ぐため、週の練習量・年間の練習期間に十分配慮して進めます。

犬山市部活動 指導ガイドライン
～ 一人一人の子どもと教員が輝く部活動を目指して ～
令和6年 9月
犬山市教育委員会
犬山市小中学校長会

部活動は、心身が大きく成長する中学生にとって、体力を向上させるとともに、他者と協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培うなど、人格の形成に大きく影響を及ぼすものであり、生涯にわたる健全な心身を培い、豊かな人間性を育む基礎となるものです。そして、中学校のたゆまない熱心な支援は、その期待以上の成長を促してきました。

しかしながら、教員が心身共に健康で、質の高い教育活動を持続することは、子どもたち、保護者がそれ以上に望むことです。教員の多忙化はこの切なる願いを遂げるために、迅速かつ不可逆的に解決しなければならない課題です。

そこで、丹葉地区の申し合わせ事項としてきた部活動の指導指針を、さらに踏み込んだ形として「犬山市部活動 指導ガイドライン」として策定しました。

1 部活動運営方針の説明について

- ・ 校長は、部ごとの運営方法を確認し、その個別事情を尊重しながら、適切な部活動運営が行われるよう指導する。運営方法は、PTA総会などの機会を通して、生徒・保護者に対して具体的に伝える。
- ・ 練習計画表を1か月前に作成し、生徒・保護者に配付する。校長は、休養日、活動時間、活動場所が適切に設定されていることを確認する。
- ・ 対外試合等の移動は、公共交通機関・自転車を原則とする。保護者への依頼は極力控えるようにする。

2 平日の活動について

- ・ 少なくとも、週に1度を休養日とする。
- ・ 活動終了時刻は、最長 **17:15** までとし、最終下校時刻を **17:30** とする。

3 休日の活動について

- ・ 週休日のどちらかを休養日とする。
- ・ 「家庭の日」である第3日曜日は実施しない。
- ・ 休日の練習時間は、3時間をめどとする。
- ・ 長期休業中の休日の活動は実施しない。年末年始の休業、夏季休業中の行事を持たない期間も同様とする。
- ・ 大会参加等で、上記のルールから外れる場合は、代替の休養日を設ける。
- ・ 1年生の休日練習の開始は、5月下旬以降とする。

4 陸上・駅伝練習について（希望者がいる場合）

- ・ 最終下校時刻から1時間以内で下校させる。
- ・ 過度な負担を防ぐため、週の練習量・年間の練習期間に十分配慮する。

5 部活動以外の活動（以下「クラブ」という）・協会登録について

- ・ 平日の夜間や休日のクラブへの参加や協会登録については、部活動と切り離して考える。教員や学校の関わりが強い場合は、個人の意志や事情が尊重されるようなルール作りを徹底する。あるいはクラブ代表者に求める。
- ・ 学校・教員は、社会教育への移行期であることを自覚しながら、より広い受け皿作りのために、部活動指導員や地域の指導員と関わりたい。